

|               |   |
|---------------|---|
| Title         | LLによる外国語教授の試み : ドイツ語初歩課程の場合   |
| Author(s)     | 乙政, 潤   |
| Citation      | 大阪外国語大学学報. 15 p.157-p.183   |
| Issue Date    | 1965-02-15  |
| oaire:version | VoR   |
| URL           | <a href="https://hdl.handle.net/11094/80245">https://hdl.handle.net/11094/80245</a> |
| rights        |   |
| Note          |   |

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

# LLによる外国語教授の試み

—— ドイツ語初歩課程の場合 ——

乙 政 潤

## Über den Deutschunterricht für Anfänger mittels des „Language Laboratory“

Jun Otomasa

### Kurze Inhaltsangabe

Seit drei Jahren unterrichte ich an unserer Schule die Anfänger der Deutschen Abteilung mittels des „Language Laboratory“. Mit Hilfe des „Language Laboratory“ zu unterrichten heißt, nach einer neuen Lehrmethode zu lehren. Bei der Anwendung der neuen Methode in der Praxis muß man jedoch viele Schwierigkeiten überwinden.

Nach der L L-Methode sind Hören und Sprechen ebenso wichtig wie Schreiben und Lesen. Deshalb mußten alle Lehrstoffe von mir in die Form mündlicher Übungen gebracht werden. Darüber hinaus ist es erforderlich, daß alle Lehrstoffe so natürlich sind, daß der Studierende die Sätze ohne Gefahr verwenden kann, wenn nur die Lebenssituationen gleich oder ähnlich sind. Auf diesen Punkt wurde von mir besonders großer Wert gelegt. Weil den Studierenden beim Unterricht zuerst nur mündliche Übungen gegeben wurden, mußte ihnen die Gelegenheit geboten werden, diese Übungen zu wiederholen und in die Form von Geschriebenem zu bringen. Auch für die Zensierung der Leistungen mußte von mir ein neues Verfahren entwickelt werden.

## ま え が き

LLがそれと密接な関係に立つところの外国語教授法<sup>(1)</sup>は、学習者に外国語を話す能力を与えることに重点を置く。文法・翻訳教授法は、そのいろいろな長所にも拘らず、この目的には適しない。のみならず、学習者にそれに従って外国語を話すための、ということは書くための標準的外国語を与えることへの配慮を怠っている。それ故、LLによる外国語教授とは、学習者に外国語を話す能力を与えることに重点を置くだけでなく、彼がそれに従って話すべき模範を与えようとする試みである。ここでは、教授の対象を特に入門者に限った場合の教授について、私が本学でドイツ語学科の1年生に対して行った授業をもとに述べる。

題が示すように、ここに記す事柄はLLを用いる授業の理想に現在の状況が許す範囲で近づこうとする試みであるから、もとより完成されたものではない。批判されるべき点を多く含んでいる。

### 1. 教材の体裁

1.1. 教材はすべて録音テープに録音された。これは、LLによって教材を学習者に与える以上不可避免的である。なぜなら、教材の機械的反覆こそ、教材の提示の仕方が工夫される限り、学習の能率に対してLLが持つ大きな意義だから。勿論この教材を文字に移すことは出来る。しかし、書かれたものは第一義的な教材ではない。

1.1.1. 5時のリールに捲かれる分量の録音テープが7時のリールに捲かれた。テープを保護するためである。録音テープを7時のリールに一ぱいに捲くことには賛成出来ない。それはテープを傷めやすいし、捲き取りに時間を多く費す。

1.1.2. 本教材の録音はすべて同一のドイツ人によって行われた。録音者が一人であった方がよい理由はない。ただ、彼のドイツ語が標準語であれば、録音者が一人であるということによって特に障害は生じない。又、録音者の個人差を識別出来る能力は少くとも入門の段階では達成されるべき目標ではない。

1.2. 教材は26の章から成り、各章は5つの節を含んでいる。これらの数は教授法の本質とは無関係な外部的条件によって決定された。ただ、各節に10の練習問題を含ませたことには理由がある。それは練習の効果である。あまりに少い練習問題は練習の意図を達成させない。即ち、学習者は、練習を行うことによって体得することを期待された一定の規則を体得しない。あまりに多い練習問題は学習者の意欲を減退せしめる。<sup>(2)</sup>

1.2.1. 章を26と決めたのは、1週1回の授業で1章を終えて1年間で26週の授業と数回のテ

ストとを行うためである。従って、この教材に盛られた内容が基礎コースとして完結しているかどうかは大いに批判されるべきである。もし週2回又はそれ以上授業することが出来るなら、14週又はそれ以内でこの教材を終了出来る。その方が一そう望ましい。理由は3つある。第1に、学習者に話す能力を与えることを大きな目標とする以上、教授は集中的である方がよい。第2に、初期に基本的な文型を話された形で習得することはその後の他方面でのドイツ語の学習を大いに容易にする。第3に、26章の基礎コースだけを1年かかって学習することは、ドイツ語の他の授業での学習に比べて遅い。そのために4つの言語能力のうち話すことが遅れる。

1.2.2. 各章を5節に分けた理由は、授業時間の長さにある。10組の模倣吹込の練習は約2分30秒を要する。90分の授業時間中約25分をこの練習にさくとするれば、その間に100組の練習を行うことが出来る。練習を2回くり返すとすれば、練習問題の数は半分の50組である。上述のように10組練習問題が共通の練習目的のために共通の形式によって統一されるから、各章は5節から成ることになる。各節の練習目的は異り、練習形式も又大ていの場合異る。実例として本論の末尾に教材の第3課を掲げる。

1.2.3. 本教材は Der große Duden 第4巻の「現代ドイツ語文法」<sup>(3)</sup>から借りた基本文型<sup>(4)</sup> (Grundformen) を1章に1文型ずつ教えることを目標の一つにしている。基本文型は全部で31ある。<sup>(5)</sup> しかし、比較的頻繁に用いられる基本文型はそれらのうち12内至13である。<sup>(6)</sup> しかもこれら12内至13の基本文型のそれぞれの使用頻度も又著しく異る。<sup>(7)</sup> 文型のこの頻度に応じた章の数をそれぞれの文型に与えた。

1.3. 教材の練習形式はすべていわゆる Four-phase-drills<sup>(8)</sup>である。但、教材を録音したテープには第2の Phase と第4の Phase とを作らなかった。録音時間を短縮するためである。このことは又教材の使い方とも関連している。学習者に模倣録音をさせたければ、教材をマスター・テーブルを通して与える際に第1・第3の Phase の後一時停止キイを用いて適当な間隔を置けば実用上さしつかえない。<sup>(9)</sup>

#### 註

1) このような教授法とはどのようなものであるかについては、前稿「LLによる外国語教授について」の2.に記した。本学学報第14号, p.140 ff.

2) Stack は最低8対という数字を挙げている。Edward M. Stack : The Language Laboratory and Modern Language Teaching, p.32.

3) Der Große Duden, Bd. 4, Grammatik der deutschen Gegenwartssprache.

4) 同上書, S. 434 ff. なお S. 466 ff に一覽表。

- 5) 4 格目的語をとるが動態文 (Handlungssatz) でないものを別の型に数えるなら、基本文型は全部で 32.
- 6) S. 463 ff.
- 7) 同上。
- 8) 前稿の註17参照。
- 9) Marty は彼のいう audio-oral review tape について学習者が模倣録音することに反対している。Ferdinand L. Marty : Language Laboratory Learning, p.48.

## 2. 教材の内容

2.1. LL による外国語教授の場合にも第一の問題は、実践的展開において教材をどのような順序で提示するかである。<sup>(10)</sup> 私はこの順序を決定する要因として「基本文型」と文法的形態とを選んだ。即ち、基本文型が複雑化してゆく過程と文法形態が難かしくなってゆく過程とを組み合わせる教材提示の順序を決定した。<sup>(11)</sup> 本論の末尾にこの教材に含まれるすべての基本文型と文法的形態との一覧表を掲げる。

2.1.1. Duden の云う基本文型とは有限数の文章論的基本文型である。話者は彼が知覚した特殊な現実をこの型に従って構成し、聞き手はそのおかげでこの現実を自らに再体験出来る。<sup>(12)</sup> 外国語を学習することはこの型を習得することである。それ故に、教材提示順序決定の一方の要因に基本文型を採った。

2.1.2. 基本文型の頻度に応じて各基本文型に章を与えたけれども、この頻度は書かれたドイツ語を分類集計して得られたものである。<sup>(13)</sup> 話し言葉の場合にはそれは別様であるかもしれない。それ故この教材の提示順序は、話されたドイツ語での基本文型頻度が明らかになれば、変更せられるべきである。

2.2. 本教材の内容に関しては、次のことを方針とした。

2.2.1. 1 語 1 義とする。

2.2.2. 類意語や類示の云いまわしや表現が入ることを避け、最も基本的なものを一つ探る。

2.2.3. 学習者が練習を行なったと同じ状況に立った場合にそれに従えば不自然でない模範であるためには、練習問題のいずれもが日常頻繁に行われる文であるようにする。

2.2.4. Lado の云う意味の文化的教材<sup>(14)</sup> を出来るだけとり入れる。

2.3. 上記の諸方針のうち2.2.3.は注目すべき事柄を惹き起した。即ち、

2.3.1. このことは、文法・翻訳教授法の文法が行う体系提示順序とは全く異なる順序を要求した。<sup>(15)</sup> 又、本教材では前稿で述べた active な言語知識と passive な言語知識との平行を目

指したので前者の体系に含まれるもので本教材には欠けるものがしばしばあった。<sup>(16)</sup> 勿論それらのものは中級コースで採り上げられるべきものである。

**2.3.2.** 1 節中の練習問題には練習の箇所を 1 ケ所に限り、文法的形態は常に易しいものの後に難かしいものを提示することは、能率の上昇を目指す以上当然考えられるべき原則である。そこで、練習のための練習文章でなく教室を離れて日常用いても自然な文章でありながら、この原則に合わせぬため他の例文に置き換えられねばならない文章が多くあった。<sup>(17)</sup>

**2.4.** この教授法が耳と口による言語能力を初歩課程でまず確立しようとする以上、意味の担い手としての音の練習は重要である。にも拘らず本教材では発音練習のための章を特に設けることはしなかった。理由は 2 つある。第 1 に各章に現われる音についてのみ毎回授業で教授し練習させればよい。第 2 に、発音をよくするための練習にはそれに適した全く別の練習法が工夫されねばならない。

**2.5.** 練習の形式は常に、学習者が自己表現の能力を体得し得るように工夫されなければならない。つまり、彼が機械的に反応しようとしても十分答え得ず、常に知的努力を要求せられるようにする配慮が望ましい。本教材に用いた主な形式は次のとおりである。<sup>(18)</sup>

#### **2.5.1. Analogy Drill :**

Diese Frage ist schwierig.

Wie ist jenes Rätsel?

Jenes Rätsel ist auch schwierig.

#### **2.5.2. Mutation Drill :**

Ich lese eine Zeitung.

Er liest eine Zeitung.

Ich helfe dem Lehrer.

Ich helfe ihm.

Der Arbeiter setzt die Maschine in Gang.

wieder

Der Arbeitr setzt die Maschine wieder in Gang.

Die Tochter ist ihrer Mutter ähnlich.

Vater

Die Tochter ist ihrem Vater ähnlich.

Open-end Mutation Drill :

sprechen

Bitte sprechen Sie !

laut

Bitte sprechen Sie laut!

nicht

Bitte sprechen Sie nicht laut !

### 2.5.3. Fixed Increment Drill :

Dieses Gebäude gehört ihm.

Ich wußte nicht,.....

Ich wußte nicht, daß das Gebäude ihm gehört.

### 2.5.4. Paired Sentence Drill :

Ich gehe nicht aus. Das Wetter ist schlecht.

Ich gehe nicht aus, wenn das Wetter schlecht ist.

### 2.5.5. Narration Drill :

Ich weiß nichts von ihm.

Er sagte,.....

Er sagte, er wisse nichts von ihm.

### 2.5.6. Questions :

Was tut der Arzt ?

Er schreibt dem Patienten gesund.

Woran erkennen Sie ihn?

Stimme

Ich erkenne ihn an der Stimme.

Haben Sie mich nicht bemerkt ?

Doch, ich habe Sie bemerkt.

註

10) LL 用初歩課程教材を作成する上でのこの問題以外の問題点について、私は語学ラボラトリー協会誌“Language Laboratory” 第3巻第2号に「LL用初歩課程教材作製の問題点」の題の下に記した。

11) このような文法的形態として、自由に文に附加され得る文肢・附加語・部分文章による文章部分の置換・語順・文の抑揚などがある。(Der Große Duden, Bd.4, S.465) 本教材ではこれらのうち最後の2者を一応配慮の外に置いた。

12) Der Große Duden, Bd. 4, S. 434, Zif. 859 の定義。

13) 同上, S. 463 ff.

4) 前稿の註 21, 22 を参照。本学学報第 14号 p.147.

1) 15) 例えば、人称代名詞のうち ich と Sie とは第1章で紹介されたが、同じ人称代名詞の3格 mir と Ihnen とは第8章で初めて紹介された。指示代名詞 dieser・jener や所有代名詞は、文型に応じてある章では単数1格のみ紹介され、別の章では単数4格のみが提示された。逆に分離・非分離という形式による動詞の分類は不可能となった。現在完了を習得すべき章にはこれらは入り乱れて現れる。名詞の格変化をまとめて扱う章は有り得るべくもなかった。

16) 例えば、人称代名詞 du 及びその変化形は本教材では全く扱われない。勿論、それは日常頻りに使われる言葉であるから、ドイツ語学習者は当然知っていなければならない語ではあるけれども、初歩の段階で話すことをまず目指す場合には必須のものとは思われない。指示代名詞の大部分・接続詞の大部分・未来完了・接続法二式の非現実語法・形容詞の最上級・数詞・固有名詞などは本教材に全く或は殆ど姿を現わさない。

17) 例えば Ich erinnere mich an den Professor, der etwa vor einem Jahre gestorben ist. や Ich erinnere mich an die Ferienreise mit großen Vergnügungen. は現実は大いに有り得る文章であるにも拘らず、附加語文章や状況語がその章では未だ習得されていないために、割愛されねばならなかった。そして、これらの代りに Ich erinnere mich an sein Versprechen. という文章だけが採られた。

18) これらの練習形式を私は註2に挙げた Stack の本から学んだ。それ故、彼の名称をそのまま借りておく。同書 p.38 ff.

### 3. 授 業

3.1. 授業時間を5分した。前回に学習した事柄の復習と、当日学習されるべき事柄の説明と、その練習と、練習の仕上げとしての録音・再生と最後に当日の語彙を文字で表わす練習。前述のように模倣・吹込練習には25分を要するので、65分が残りの作業に当てられた。これは理想的ではない。LL での練習と教室での授業とが交互に行われるべきである。そのことによっ



て、学習者は LL では耳と口とによって練習し、教室でこれを文字で表わすことを習得する。

**3.1.1.** LL 教室では復習に大して時間を割き得なかった。前回の授業で行った練習問題のいくつかを書き取らせるに留め、テープによる復習は LL 自習室<sup>(19)</sup> で学習者各自に行わせた。なお前回の書き取りは次の授業の初めに学習者に返して、誤りのあった者には LL 教室に備えられたエンドレス・テープレコーダーで再生される前回の書き取り問題を聞かせ自分で訂正・再提出せしめた。<sup>(20)</sup> これも自習室で行われるべき事柄である。

**3.1.2.** 当日行われる練習の形式と目的とについて話し、それに慣れるよう口頭でいくつかの練習を行った。この場合は学習者をブースに入らしめない。新しい語彙を同じく口頭で与えたが、数が多い場合にはこれは十分能率的でなかった。前以って語彙だけをテープ<sup>(21)</sup> で予習させておくことが必要である。

**3.1.3.** 学習者をブースに入らしめ、マスター・テーブルから教材を流し録音せしめる。前述の如くこの場合には第 2・4 phase は欠けているので、学習者は自分の模倣は録音しない。学習者はこのようにして録音されたテープを再生する際に、第 1・3 phase の後で一時停止キーを用いてテープを止め、反応を低い声で云う。この練習の際に録音せしめない理由は前稿で述べた。<sup>(22)</sup>

**3.1.4.** 上述の練習が終れば、学習者の模倣を録音させる。マスター・テーブルから教材を流しながら、一時停止キーを用いて第 1・3 phase の後に教授者が適当な長さの空白を作ると、これが学習者のテープでは第 2・4 phase となり反応が録音される。録音が終われば再生せしめる。学習者が再生の際に反応の不完全な箇所を発見すれば、そこだけを各自改めて訂正録音せしめる。

**3.1.5.** 最後に当日の練習に現われた語彙のうち、音と文字との結合が難しいと思われるものだけについて結合の練習を行う。

**3.2.** 上に述べたような授業では殊更に文字を排している。学習者は授業で習得したものを文字と結びつけるための機会を教室ではほとんど持たない。それは復習に任せられている。学習者のすべてが 2 段録音可能のテープ・レコーダーを自由に使用し得る立場にあるとは到底考えられないので、そのために学習者が復習の機会を持たないことは LL による教授の大きな障害である。復習のためにテープ・レコーダーの使用を許す LL 自習室はこの障害除去に大いに有意義である。ここで学習者は復習しつつ、教室で学習したものを文字と結びつけることが出来る。

**3.3.** 授業で文字を排しようとする努力は全く別方面から脅かされる。それは学習者の文字に対する大きな執着である。彼らは新しい語を耳にすると、それがどう書かれるかをまず知りたが

る。そして、文字を見ることさえ許されれば、その語を正しく発音出来ると信じている。この觀念がまず打破されねばならない。学習者は、彼が正しく話せるようになって後はじめて、彼が話せることを正しく書くことを習うのだと知るべきである。

3.4. 教材の各練習問題相互の間に何ら関連はない。つまり、1節の練習問題全体が一つの「言」(Rede)であり、各練習問題はその「言」の中の「文」(Satz)であるわけではない。<sup>(23)</sup> 各練習問題がそれぞれある「言」の中から任意に抜き取られた「文」である。このことは本教材の一つの限界を示す。学習者に自己表現能力を与えるといっても、各練習問題の文が発せられる状況が学習者に不明確であるならば、彼の発話は自己表現となり得ない。作成に当って教材は出来るだけ具体的状況を明確にするものであるよう配慮したが、それでもなお、上のことを念頭において、学習者に練習について説明を与える際に時々状況についても触れる必要があった。

もっともこのことを避ける方法はある。一つは各節又は各章を一つの「言」とするような具体的状況を設定することである。<sup>(24)</sup> もう一つは、LL 教室での作業を全く機械的問題練習のみに限り、LL 教室での作業の後に学習者に既習の範囲で自己表現を行わせこれを訓練するような授業を、それも外国人教師の手によって、行うことである。<sup>(25)</sup>

3.5. 本教材におけるような練習に終始するならば、いくつかの章の学習を終えた後に、既習の基本文型と文法的形態と語彙とを抱括する一つの具体的状況を設定し、これについて口頭による自己表現や作文を行わせることが練習の効果をより大きくする。

#### 註

19) 本字にも昭和39年9月から開設された。現在13台の2段録音可能テープ・レコーダーが置かれ、学生の使用に供されている。

20) 誤りを教授者は訂正しない。誤りの箇所に下線をし、誤りの種類を示すためのあらかじめ約束された符号のみを答案用紙の右端に記す。このことにより学習者は彼の誤りの種類を知る。又、自分で訂正することにより誤りをはっきりと意識する。このこともやはり私は註2で述べた Stack の本からヒントを得た。同書 p.116 ff.

21) 例えば、日本語の語彙とドイツ語の語彙とを交互に録音したテープや絵を見ながら聞くテープを与えるなど。

22) 前稿の3・4項参照。本学学報第14号, p.144.

23) Der große Duden, Bd. 4, S. 431 Zif. 855, 856.

24) そのために絵を用いようとスライドを用いようと劇的構成を試みようと、それは教授技法上の問題である。又、教授の能率によって決定される問題である。

25) 私の知る限りでは、LL について書いているアメリカの著者たちにとっては、このことはむしろ当然のことのようである。彼らは、私が LL 教室の中で少しでも分離しようとしたものを、もっと明確に具体的に教室での授業と LL での作業とに分けている。従って、彼らは LL の限界を歎いたりはいしない。Marty は LL 一辺倒になることを極力いましてさえている。

## 4 学習効果の測定

4.1. ここで云う学習効果測定の目的は、その結果を測定後の教材作成の指針とすることではなくて、予定の学習目標のどれくらいを学習者が達したかを知るためのものである。それ故に、基礎コースの目標から考えて、常に学習者の聞いて理解する能力と正しく話す能力との上に立って他の二つの能力、読む能力と書く能力とを測定しようとした。

測定のために次のような形式のテストを作成した。テストの問題はすべて既習の練習問題から採った。本論の末尾にその解答冊子を掲げたところの実例のテストは、解答を記入又は録音せしめる時間をすべて含めて、開始から終了まで37分を要した、問題も説明の文もすべてテープに録音され、マスター・テーブルから各ブースの学習者へと送られた。

4.2. 学習者が対象を正しく聞きとっているかどうかを試すための形式として、次の3つを用いた。

4.2.1. その発音が類似している1組の単語を聞かせて同一であるかどうかを識別させる。解答は解答欄へ○×で記入させる。

4.2.2. その発音が類似している1組の発話を聞かせて、それが同一であるかどうかを識別させる。解答は解答欄へ○×で記入させる。

4.2.3. 一つの発話を聞かせて、別紙に書かれたいくつかのうちから発話を正しく書いているものを選ばせそれに○を、残りには×を記させる。

4.3. 学習者が聞きとったものを正しく理解しているかどうかを試すための形式として、次の3つを用いた。

4.3.1. 一つの発話を聞かせて、別紙に書かれたいくつかの日本語の陳述のうちから発話の意味を表わすものを選ばせそれに○を、残りには×を記させる。

4.3.2. いくつかの発話を聞かせて、それらのうちから別紙に書かれた日本語の陳述に合致するものを選ばせる。解答は発話の順序に合致する解答欄に○を、残りには×を記入させる。

4.3.3. いくつかの質問形式の発話を聞かせて、それに対する返事を別紙に書かれたドイツ語の陳述のうちから選ばせる。解答は学習者が適当だと考える陳述に○を、残りには×を記さ

せる。

4.4. 学習者が正しく話せるかどうかを試すための形式として、次の3つを用いた。

4.4.1. 質問形式の発話を一つ聞かせて、それに対して、ドイツ語で答えさせる。解答は別に用意したテープ<sup>(26)</sup>に録音させる。<sup>(27)</sup>

4.4.2. 一つの発話を聞かせて、それを別紙に記した<sup>(28)</sup>要求に従って口頭で変形させる。解答は別に用意したテープに録音させる。

4.4.3. 質問形式の発話を一つ聞かせて、それに対して、別紙に描かれた絵を見て、場合によっては別紙に記された日本語の陳述を読んで、その状況に合わせてドイツ語で答えさせる。解答は別に用意したテープに録音させる。

4.5. 学習者が正しく話せるとして、彼が話せるものを正しく書くことが出来るかどうかを試すための形式として、次の3つを用いた。

4.5.1. 質問形式の発話を一つ聞かせて、それに対して、ドイツ語で答えさせる。解答は別紙に書かせる。

4.5.2. 一つの発話を聞かせて、それを別紙に記した要求に従って変形させる。解答は別紙に書かせる。

4.5.3. 質問形式の発話を一つ聞かせて、それに対して、別紙に描かれた絵を見て、場合によっては別紙に記された日本語の陳述を読んで、その状況に合わせてドイツ語で答えさせる。解答は別紙に書かせる。

#### 註

26) 5時のリールに秒速9.5cmで6分30秒の分量を巻いて各学習者に与えた。

27) 解答のためのテープに問題の文章も録音されると、採点するために教授者が再生する際に時間がかかるので、解答だけが録音されるように工夫する必要があった。このために私は学習者に問題の文章が聞えている間は一時停止キでテープを停止させ、解答の間だけテープを動かすようにさせた。

28) このことによって学習者は問題を予想し得る。

#### 附1. 教材の実例、第3課。

##### Lektion 3

I. 1. Lech lese eine Zeitung.

Der Herr liest eine Zeitung.

2. Ich lese einen Roman.

Die Dame liest einen Roman.

3. Ich schreibe einen Brief.

Der Junge schreibt einen Brief.

4. Ich kaufe ein Zweipfundbrot.

Die Dame kauft ein Zweipfundbrot.

5. Ich mache eine Reise.

Die Dame macht eine Reise.

6. Ich trinke Kaffee.

Der Herr trinkt Kaffee.

7. Ich esse Suppe.

Der Junge ißt Suppe.

8. Ich esse Kuchen.

Das Mädchen ißt Kuchen.

9. Ich trage eine Brille.

Der Herr trägt eine Brille.

10. Ich trage einen Hut.

Die Dame trägt einen Hut.

- II. 1. Liest der Herr eine Zeitung ?

Ja, er liest eine Zeitung.

2. Liest die Dame einen Roman ?

Ja, sie liest einen Roman.

3. Schreibt der Junge einen Brief ?

Ja, er schreibt einen Brief.

4. Macht die Dame eine Reise ?

Ja, sie macht eine Reise.

5. Kauft der Arbeiter ein Zweipfundbrot ?

Ja, er kauft ein Zweipfundbrot.

6. Trinkt die Dame Milch ?

Ja, sie trinkt Milch.

7. Ißt der Junge Suppe ?

Ja, er ißt Suppe.

8. Ißt das Mädchen Kuchen ?

Ja, sie ißt Kuchen.

9. Trägt der Herr eine Brille ?

Ja, er trägt keine Brille.

10. Trägt die Dame einen Hut ?

Ja, sie trägt einen Hut.

- III. 1. Was liest der Herr ?

Er liest eine Zeitung.

2. Was liest die Dame ?

Sie liest einen Roman.

3. Was schreibt der Junge ?

Er schreibt einen Brief.

4. Was kauft der Arbeiter ?

Er kauft ein Zweipfundbrot.

5. Was trinkt der Herr ?

Er trinkt Kaffee.

6. Was trinkt die Dame ?

Sie trinkt Milch.

7. Was ißt der Junge ?

Er ißt Suppe.

8. Was ißt das Mädchen ?

Sie ißt Kuchen.

9. Wen fragt der Lehrer ?

Er fragt den Schüler.

10. Wen fragt die Lehrerin ?

Sie fragt die Schülerin.

- IV. 1. Liest der Herr eine Zeitung ?

Nein, er liest keine Zeitung.

2. Liest die Dame einen Roman ?

Nein, sie liest keinen Roman.

3. Schreibt der Junge einen Brief ?

Nein, er schreibt keinen Brief.

4. Macht die Dame eine Reise ?

Nein, sie macht keine Reise.

5. Kauft der Arbeiter ein Zweipfundbrot ?

Nein, er kauft kein Zweipfundbrot.

6. Trinkt die Dame Milch ?

Nein, sie trinkt keine Milch.

7. Ißt der Junge Suppe ?

Nein, er ißt keine Suppe.

8. Ißt das Mädchen Kuchen ?

Nein, sie ißt keinen Kuchen.

9. Trägt der Herr eine Brille ?

Nein, er trägt keine Brille.

10. Trägt die Dame einen Hut ?

Nein, sie trägt keinen Hut.

- V. 1. Ich lese eine Zeitung.

Sie lesen eine Zeitung.

2. Ich lese einen Roman.

Sie lesen einen Roman.

3. Ich schreibe einen Brief.

Sie schreiben einen Brief.

4. Ich kaufe ein Zweipfundbrot.

Sie kaufen ein Zweipfundbrot.

5. Ich trinke Kaffee.

Sie trinken Kaffee.

6. Ich trinke Milch.

Sie trinken Milch.

7. Ich esse Suppe.

Sie essen Suppe.

8. Ich esse Kuchen.

Sie essen Kuchen.

9. Ich trage eine Brille.

Sie tragen eine Brille.

10. Ich trage einen Hut.

Sie tragen einen Hut.

附 2 . 教材中の基本文型と文法的形態。

| 章 | 基本文型                     | 文法的形態   | 関連せる語彙  |
|---|--------------------------|---|---|
| 1 | I, 1<br>Ich arbeite.     | 人称代名詞①<br>一般動詞直説法現在人称変化①<br>状況語としての無変化の形容詞・副詞<br>決定疑問文<br>疑問文における定形倒置<br>決定疑問文に対する否定の返事①<br>命令形<br>否定の形の命令<br>疑問副詞①<br>状況語としての前置詞句<br>不定冠詞① | ich, er, sie(.N), Sie(N)<br>arbeite, arbeitet<br>rechne, rechnet, arbeiten(Sie)<br>fleißig, selten<br><br>nein, nicht<br><br>bitte<br>nicht<br>wo ?<br>an, in<br>einer(D), einem(n.)                      |
| 2 | I, 2<br>Ich bin Student. | 人称代名詞②<br>名詞の複数形<br>等置 1 格の名詞における不定冠詞の省略<br>疑問代名詞①<br>sein 動詞直説法現在人称変化①<br>選択疑問文<br>決定疑問文に対する否定の返事②<br>否定冠詞①<br>指示代名詞①<br>定冠詞①              | wir<br>Studenten, Lehrer, Ärzte, Ärztinnen,<br><br>was ? (N)<br>bin, sind (wir), sind (sie)<br>kein<br>kein (m.,N), keine(f.,N)<br>dieser(N), diese(N) dieses(N)<br>der(N), die(f.,N), das(N), die(pl.,N) |



|   |   |  |  |
|---|---|--|--|
| 3 | <p>II, 1</p> <p>Ich lese eine Zeitung.</p>        | <p>一般動詞直説法現在人称変化②</p> <p>不定冠詞②</p> <p>単数 4 格目的語での冠詞の省略①</p> <p>否定冠詞②</p> <p>疑問代名詞②</p>   | <p>liest, ißt, trägt</p> <p>einen, eine (A)<br/>ein (A)</p> <p>Kaffee</p> <p>keinen, keine(f., A),<br/>kein(A)</p> <p>was ? (A), wen ?</p>   |
| 4 | <p>I, 1</p> <p>Es regnet. Ich erkältete mich.</p> | <p>非人称動詞直説法現在変化①</p> <p>状況語としての無変化形容詞を修飾する副詞</p> <p>2 つ以上の単一状況語の配列</p> <p>再帰動詞①</p> <p>一般動詞直説法過去人称変化①</p> <p>現在完了①</p> <p>分離動詞</p> <p>状況詞としての 4 格の名詞</p> <p>部分否定</p> | <p>es regnet.</p> <p>sehr</p> <p>heute morgen</p> <p>ich erkältete mich, er erkältete sich.</p> <p>ich verlieb mich, er verlieb sich.</p> <p>er hat sich erkältet. ich habe mich erkältet, er hat sich gefürchtet, ich habe mich verlaufen,</p> <p>Stehen Sie auf ?, ich stehe auf.</p> <p>jeden Tag</p>   |
| 5 | <p>I, 2</p> <p>Werner ist mein Freund.</p>        | <p>固有名詞①</p> <p>所有代名詞①</p> <p>所有代名詞と共に名詞に附加される形容詞①</p> <p>所有代名詞②</p> <p>定冠詞③</p> <p>不定冠詞③</p> <p>不定冠詞と共に名詞に附加される形容詞①</p> <p>定冠詞と共に名詞に附加される形容詞①</p>                   | <p>Werner(N)</p> <p>mein(m., N), sein(m., N),<br/>ihr(m., N), meine(f., N), seine(f., N), Ihre(f., N), unsere(f., N)</p> <p>guter, älterer(m., N); jüngere(f., N); alte(f., N)</p> <p>meines(m., G), seines(m., G),<br/>ihres(m., G), Ihres(m., G),<br/>meiner(f., G), ihrer(f., G),<br/>unserer(f., G), Ihrer(f., G)</p> <p>das(N), des(m.), der(f., G),<br/>des(n.)</p> <p>eines(m.), einer(G), eines(n.)</p> <p>alten(m., G), fremden(f., G)<br/>kleinen(n., G)</p> <p>reichen(m., G),<br/>fremden(f., G),<br/>armen(n., G)</p> |

|   |  |   |  |
|---|--|---|--|
| 6 | <p>Ⅱ, 1</p> <p>Ich wasche mir<br/>das Gesicht.</p>       | <p>同格名詞<br/>定冠詞③<br/>所有代名詞③</p> <p>指示代名詞②</p> <p>人称代名詞③</p> <p>所有の3格<br/>利害の3格<br/>再帰代名詞①</p> <p>所有代名詞③</p> <p>四格人称代名詞と状況語との配列順</p> <p>四格再帰代名詞と状況語との配列順</p> <p>単一状況語と前置詞句状況語との配列順</p> <p>単数4格目的語での冠詞の省略②</p> <p>haben 動詞直説法現在人称変化①</p> <p>指示代名詞③</p> <p>複数4格目的語での冠詞の省略</p> <p>疑問形容詞①</p> <p>非人称動詞直説法現在変化②</p> | <p>das Schloß Osaka</p> <p>den(m.), die(f.,A), das(A)</p> <p>meinen(A), seinen(A), ihren(A), unseren(A) Ihnen(A), seine(f.,A), ihre(f.,A), meine(pl.,A), seine(pl.,A), ihre(pl.,A), Ihre(pl.,A)</p> <p>diesen(A), diese(f.,A), dieses(A), diese(pl.,A)</p> <p>mir, ihm(m.), Ihnen</p> <p>mir</p> <p>mir, meinem Vater</p> <p>sich<sup>3</sup> (er), sich<sup>4</sup> (Sie), mich</p> <p>meinem(m.)</p> <p>sofort nach der Arbeit</p> <p>Auto, Klavier, Schi, Magen-schmerzen</p> <p>habe, hat, haben(Sie)</p> <p>diesem(n.), dieser(D), jener (N)</p> <p>Geschwister</p> <p>wieviele(pl.,A)</p> <p>es gibt</p> |
| 7 | <p>Ⅱ, 1</p> <p>Ich habe einen<br/>Brief geschrieben.</p> | <p>不定冠詞と共に名詞に附加される形容詞②</p> <p>定冠詞と共に名詞に附加される形容詞②</p> <p>指示代名詞と共に名詞に附加される形容詞①</p> <p>所有代名詞④</p> <p>所有代名詞と共に名詞に附加される形容詞②</p> <p>人称代名詞④</p>  | <p>langen(m.,A) deutsche(f.,A) einsames(A)</p> <p>ausländischen(m.,A), alte(f.,A), schwierige(n.,A)</p> <p>unglücklichen(m.,A), grausame(f.,A), helle(n.,A)</p> <p>sein(A) unser(A), unsere(f.,A), unsere(pl.,A)</p> <p>schmutziges(A), schlechte(f.,A)</p> <p>ihr</p>   |

|    |   |  |   |
|----|---|--|---|
| 8  | I, 3<br>Ich helfe dem Studenten.                  | 定冠詞⑤<br>疑問代名詞③<br>人称代名詞⑤   | dem(m.), der(D)<br>wem ?<br>es(N)   |
| 9  | I, 5<br>Ich schreibe an meinen Vater.             | 人称代名詞⑥<br>所有代名詞⑤   | ihn, sie(f.,A), sie(pl.,A)<br>ihr(n.,A), Ihre(f.,A)   |
| 10 | I, 6<br>Ich sitze auf einem Stuhl.                | 不定冠詞④<br>前置詞と定冠詞との縮合形<br>sein 動詞直説法現在人称変化②<br>固有名詞③  | einem(m.)<br>im(n.), ins, aufs, zum(m.)<br>sind(Sie)<br>Deutschland   |
| 11 | I, 8<br>Das Buch ist dick.                        | 形容詞の述語用法<br>述語形容詞の否定<br>附加疑問<br>比較級の述語形容詞<br>指示代名詞④<br>疑問副詞②<br>不定冠詞と共に名詞に附加される形容詞③<br>冠詞なしに名詞に附加される形容詞① | nicht<br>nicht wahr ?<br>als<br>jenes(N), jene(f.,N)<br>wie ?<br>hoher, teure(N),<br>sauberes(N)<br>heißer(N), kaltes(N)  |
| 12 | II, 3<br>Leihen Sie mir bitte Ihr Fahrrad einmal? | 人称代名詞⑦<br>人称代名詞 3 格目的語と名詞 4<br>格目的語との配列順<br>所有代名詞⑥<br>指示代名詞⑤   | ihnen<br><br>meinem(m.), seinem(m.), ihrem(m.)<br>Ihrem(m.) meiner(D)<br>seiner(D), ihrer(D), seinen(pl.), Ihrer(D)<br><br>jenem(m.), jener(D), jenes(A),<br>jenen(m.),<br>jene(f.,A) |
| 13 | II, 5<br>Ich frage einen Herrn nach dem Weg.      | 不定冠詞と共に名詞に附加される形容詞④<br>前置詞の目的語たる名詞の前の冠詞の省略①<br>疑問代名詞 was と前置詞との縮合形<br>不定代名詞①                             | guten(m.,D)<br>an Wissen<br><br>woran ?, worum ?, wozu ?,<br>worauf ?, wovor ?, wonach ?<br>etwas(A), nichts(A)   |

|    |   |  |  |
|----|---|--|--|
| 14 | II, 6<br>Stellen Sie den<br>Stuhl an das Bett ?                         | 物質名詞の定冠詞<br>4 格目的語と前置詞つき目的語<br>と状況語との配列順<br>疑問副詞③  | das Geld<br><br>wohin ?  |
| 15 | II, 1<br>Hat er Sie angespro-<br>chen ?                                 | 人称代名詞⑧<br>指示代名詞⑥<br>4 格目的語と前置詞つき状況語<br>との配列順<br>疑問代名詞④<br><br>右のような云いまわし<br><br>選択肢つきの選択疑問文<br>4 格目的語と単一状況語との配<br>列順<br>話法の助動詞①<br><br>直説法現在の話法の助動詞の否<br>定 | mich, Sie(A)<br><br>dieses(A)<br><br>welchen Sport, welche Jahres-<br>zeit(A), welche Blumen(pl.,A)<br><br>was für einen ? was für eine ?<br>(A), was für ein ? (A)<br><br>oder<br><br>kann (ich,er), will (ich,er),<br>muß(ich,er), darf(ich,er),<br>soll(ich,er) |
| 16 | I, 5<br>Der verdächtige<br>Mann wurde von<br>dem Polizisten<br>verhört. | 受動態①<br>一般動詞直説法過去人称変化②<br><br>再帰動詞②  | wird, wurde<br><br>schrieb(er), besuchte (er),<br>kauften(wir)<br><br>ich erinnere mich, er erinnert<br>sich   |
| 17 | I, 8<br>Dieser Junge ist<br>nicht so groß wie<br>jener.                 | 劣等の比較を表わす述語形容詞<br>比較級の述語形容詞について程<br>度の差を現わす副詞句<br>述語形容詞に代るもの<br><br>再帰動詞③<br>述語形容詞と単一状況語又は前<br>置詞句状況語との配列順   | nicht so~wie<br><br>drei meter, 1.8kg, hundert<br>PS,<br><br>wie ein Italiener, wie verlassen,<br>als ein tüchtiger Geschäftsmann,<br>voll Wasser, voller Studenten,<br>zu hören, auf<br><br>wir benehmen uns  |
| 18 | II, 8<br>Ich mache unsere<br>Wohnung sauber.                            | 形容詞以外で 4 格目的語の様態<br>を示すもの<br><br>再帰動詞的に用いられる自動詞<br>(直説法現在)   | als Wohltäter, voll Wasser,<br>in Würfel<br><br>arbeite, arbeitet<br>arbeiten(wir), arbeiten(Sie)  |

|    |  |  |   |
|----|--|--|---|
| 19 | I, 8a<br>Ist das Kind dem Vater ähnlich?                                   | 定冠詞と共に名詞に附加される形容詞③<br>所有代名詞と共に名詞に附加される形容詞③<br>人称代名詞⑨   | berühmten (m.,D),<br>unglücklichen(f.,D)<br>japanischen(n.,D)<br>starken(m.,D),<br>anständigen(pl.,D)<br>uns(D)   |
| 20 | I, 8c<br>Die Dame ist an Architektur interessiert.                         | auch の位置<br>前置詞の目的語たる名詞の前の冠詞の省略②<br>人称代名詞⑩   | auch<br>an Kohlen, an Architektur, von Leuten<br>uns(A)   |
| 21 | I, 1<br>Ich kann nicht einschlafen, wenn ich vor dem Schlaf Kaffee trinke. | 非人称動詞直説法過去変化<br>一般動詞直説法未来人称変化①<br>副文①<br>副文における定形後置<br>副文における nicht の位置<br>人称代名詞と前置詞との縮合形<br>話法の助動詞②<br>不定代名詞②<br>sein 動詞直説法過去人称変化 | es donnerte.<br>ich werde abfahren.die Knospen werden sich entfalten<br>wenn, weil, als, sobald<br>nicht<br>daran<br>wollte(ich)<br>niemand(N)<br>war(es)       |
| 22 | II, 1<br>Ich wußte nicht, daß er sein Vater ist.                           | 副文②<br>疑問副詞④<br>副文における定形後置(助動詞の場合)<br>間接話法のための接続法一式(一般動詞, habne動詞, 話法の助動詞, 助動詞 werden)   | daß, warum, ob, wie<br>warum ? wie ?<br>wisse(er), wolle(er), werde(er), sei (er), habe(er), habe(ich), müsse(ich)  |
| 23 | I, 5<br>Ich habe mich an mein Versprechen erinnert.                        | 再帰動詞④<br>alle の位置<br>一般動詞直説法過去人称変化③<br>疑問代名詞⑤  | ich habe mich gefreut,<br>ich habe mich erinnert<br>alle diese Briefmarken<br>führten auf(sie) grüßten (sie)<br>für welchen ?, nach wem ?, auf wen ?, vor wem ? |

|    |  |   |  |
|----|--|---|--|
| 24 | I , 6<br>Er wohnt seit drei Jahren ununterbrochen in diesem Hause. | 再帰動詞⑤<br>現在完了②<br><br>空間的意味補充と2つの異種の前置詞句状況語との配列順      | wir haben uns gesetzt.<br><br>wir haben uns gesetzt,<br>ich bin gewesen,<br>er ist gegangen,<br>sie haben gegessen.                        |
| 25 | I , 8<br>Die Fehler, die Sie gemacht haben, sind schwerwiegend.    | 形式主語 es<br>関係代名詞<br><br>名詞的に使われた不定詞から成る句<br>副文の主文への挿入 | es, daß, zu rauchen<br><br>den(m.), die(f., A), das(N, A),<br>die(pl., A), mit dem(m.),<br>für den, an der, an die(f.),<br>auf denen<br>es |
| 26 | II , 1<br>Ein Herr hat mich nach dem Weg zum Bahnhof gefragt.      | 一般動詞直説法未来人称変化③<br>話法の助動詞②                             | er wird einladen, sie werden erkennen<br>möchte(ich)   |

#### 註

- 1) 基本文型欄中の例文は練習問題から採った。
- 2) 例文の上の数字は Duden の「文法」の与えた番号である。
- 3) 従来の「文法」教授体系が大きな変更を余儀なくされることが示されれば足りると考えたので、文法的形態の欄の用語を組織立てたり記述の立場を統一することをしなかった。

#### 附 3 . テストに用いた解答用紙の実例。

テープの番号  氏名

- 1, 1. テープに読まれる一対の単語が同じだと思えば ○ を , 同じでないと思えば × を記入せよ。(解答欄省略)
2. テープに読まれる一対の文章が同じだと思えば ○ を , 同じでないと思えば × を記入せよ。(解答欄省略)
3. 次の各組のそれぞれの文章のどれがテープに読まれている文章と同じであるか。同じと思われるものに ○ を , 同じと思われないものに × をつけよ。

- |    |                       |
|----|-----------------------|
| 1) | Er trinkt Kfatee.     |
|    | Er geht in ein Café.  |
|    | Ich gehe in ein Café. |

- 2)  Ich bin zu Hause.  
 Ich fahre nach Hause.  
 Sie sind zu Hause.
- 3)  Ich stelle mich vor die Bank.  
 Ich sitze auf der Bank.  
 Ich setze mich auf die Bank.
- 4)  Die Dame ist Lehrerin.  
 Die Damen sind Lehrerinnen.  
 Der Herr ist Lehrer.
- 5)  Ist der Junge Mittelschüler ?  
 Ißt der Junge Suppe ?  
 Essen die Jungen Suppe ?
- 6)  Ich helfe ihr.  
 Ich folge ihr.  
 Ich helfe ihm.
- 7)  Ich schreibe an meine Freunde.  
 Ich schreibe an meinen Freund.  
 Ich schreibe an meine Freundin.
- 8)  Gehorcht der Student dem Lehrer ?  
 Folgen die Studenten dem Lehrer ?  
 Folgt der Student dem Lehrer ?
- 9)  Er gehorcht dem Arzt.

- |  |                         |
|--|-------------------------|
|  | Er gehorcht der Ärztin. |
|  | Er folgt der Ärztin.    |
- 
- |     |                          |
|-----|--------------------------|
|     | Bitte rauchen Sie!       |
| 10) | Bitte rauchen Sie nicht! |
|     | Bitte untersuchen Sie!   |

II, 1. テープに読まれる文章の意味は、次の各組の和文のどれに当るか。当ると思うものに○を、当ると思わないものに×をつけよ。

- |    |                |
|----|----------------|
|    | 私はベッドに横たわっている。 |
| 1) | 彼はベッドに横になる。    |
|    | 私はベッドに横になる。    |
- 
- |    |                      |
|----|----------------------|
|    | その婦人はしばしばコーヒー店へ行く。   |
| 2) | そ婦の人はめったにコーヒー店へ行かない。 |
|    | その婦人はコーヒーを飲まない。      |
- 
- |    |            |
|----|------------|
|    | 彼は町へ行く。    |
| 3) | 私は町へ行く。    |
|    | 彼は町に住んでいる。 |
- 
- |    |               |
|----|---------------|
|    | 彼は彼の父のことを思う。  |
| 4) | 彼は彼の父に感謝する。   |
|    | 彼は彼の従兄のことを思う。 |
- 
- |    |             |
|----|-------------|
|    | 彼女は母の気に入る。  |
| 5) | 彼女は母に従順である。 |
|    | 彼女は母に忠告する。  |



- 6) 

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |

 彼はある高校で教えている。  
彼はある大学で教えている。  
彼はある高校生に忠告する。
- 7) 

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |

 彼女はお菓子は食べるか。  
その女の兄はお菓子を食べる。  
その女の兄はお菓子を食べるか。
- 8) 

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |

 彼等は日本人だ。  
彼女は日本人だ。  
あなたは日本人だ。
- 9) 

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |

 その女の子らは（女子）学生だ。  
その女の子は（女子）学生か。  
その女の子らは（女子）学生か。
- 10) 

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |

 その女の先生は午後に中庭へ行く。  
その女の先生は午前中に中庭へ行く。  
その女の先生は正午に中庭へ行く。

2. テープは次の和文一つに対して独文を三つ読む。最初の独文が意味の上で和文に合致すると思うなら、最初の欄へ○をつけよ。二つ目の文だと思えば中央の欄へ、最後の文だと思えば最後（右端）の欄へ○をつけよ。合致しないと思う文には必ず×をつけること。

- (1) 私は医者だ。..... 

|  |  |  |
|--|--|--|
|  |  |  |
|--|--|--|
- (2) その少年たちは高校生だ。..... 

|  |  |  |
|--|--|--|
|  |  |  |
|--|--|--|
- (3) その婦人は眼鏡をかけている。..... 

|  |  |  |
|--|--|--|
|  |  |  |
|--|--|--|
- (4) 彼女はドイツ語を話す。..... 

|  |  |  |
|--|--|--|
|  |  |  |
|--|--|--|
- (5) 彼女はめったに歌わない。..... 

|  |  |  |
|--|--|--|
|  |  |  |
|--|--|--|

- (6) タバコをすわないで下さい。 ..... 

|  |  |  |
|--|--|--|
|  |  |  |
|--|--|--|
- (7) 先生はその学生を助ける。 ..... 

|  |  |  |
|--|--|--|
|  |  |  |
|--|--|--|
- (8) 私は私の従姉にあてて手紙を書く。 ..... 

|  |  |  |
|--|--|--|
|  |  |  |
|--|--|--|
- (9) 私はその椅子に腰をおろす。 ..... 

|  |  |  |
|--|--|--|
|  |  |  |
|--|--|--|
- (10) 百姓は野良へ行く。 ..... 

|  |  |  |
|--|--|--|
|  |  |  |
|--|--|--|

3. テープに読まれる問いに対する返事として適当と思うものに○をつけよ。適当と思わないものには×をつけよ。

- 1) 

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |

 Er fährt nach Deutschland.  

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |

 Sie fährt nach Deutschland.  

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |

 Ich fahre nach Deutschland.

- 2) 

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |

 Sie sind Oberschülerinnen.  

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |

 Sie ist Oberschülerin.  

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |

 Sie sind Oberschüler.

- 3) 

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |

 Er trinkt Milch.  

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |

 Er trinkt keine Milch.  

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |

 Ja, er trinkt Milch.

- 4) 

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |

 Sie ist Oberschülerin.  

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |

 Nein, sie rechnet nicht schnell.  

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |

 Sie lehrt an einer Oberschule.

- 5) 

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |

 Sie dankt mir.  

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |

 Sie danken mir.  

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |

 Ich danke ihr.

- 6) 

|  |
|--|
|  |
|--|

 Der Herr rät mir.

- |     |                      |   |
|-----|----------------------|---|
|     | <input type="text"/> | Ich rate dem Herrn.                     |
|     | <input type="text"/> | Sie rät mir.                            |
|     | <input type="text"/> | Nein, sie gefallen dem Vater nicht.     |
| 7)  | <input type="text"/> | Ja, sie gefällt dem Vater.              |
|     | <input type="text"/> | Ja, sie rät dem Vater.                  |
|     | <input type="text"/> | Er dankt dem Vater.                     |
| 8)  | <input type="text"/> | Er denkt an den Vater.                  |
|     | <input type="text"/> | Die Mutter denkt an ihn.                |
|     | <input type="text"/> | Ich gehe heute vormittag in die Schule. |
| 9)  | <input type="text"/> | Ich gehe heute nachmittag zum Bahnhof.  |
|     | <input type="text"/> | Ich gehe mittags in den Hof.            |
|     | <input type="text"/> | Er steht vor dem Lehrer.                |
| 10) | <input type="text"/> | Er stellt sich vor den Lehrer.          |
|     | <input type="text"/> | Er sitzt vor dem Lehrer.                |

Ⅲ, 1. 答はテープへ吹き込む。

2. 答はテープへ吹き込む。但し、以下の指示に従うこと。

- (1) 主語を複数に。
- (2) 同上。
- (3) 主語を er に。
- (4) 主語を sie (彼女) に。
- (5) 否定の返事をする。
- (6) 目的語を人称代名詞で置き換える。
- (7) 同上。
- (8) 否定の返事をする。

(9) 主語を sie (彼女) に。

(10) 「今日の午後」を加える。

3. 答はテープへ吹き込む。但し、ヒントを記した問いに対してはそれに合致した答をすること。

(1) (2) (3) — (4) コーヒー (5) 商社 (6) —

(7) 父 (8) 女の友人 (9) 田舎 (10) 先生の前

IV, 1. テープに対する返事をここへ記入する。落着いてきれいに書くには時間は十分足りるが、あわててきたなく書いてから書き直すには足りない。

2. テープに読まれる文章を次のそれぞれの指示に従って書き換えよ。注意は 1 と同じ。

(1) 主語を複数に。

(2) 同上。

(3) 主語を「その少年」に。

(4) 目的語を「新聞」に。

(5) 否定の返事をする。

(6) 目的語を「母」に。

(7) 主語を er に。

(8) 否定の返事をする。

(9) 主語を er に。

(10) 主語を er に。

3. 問を聞いて絵をヒントにしてそれに合致した答を記せ。

(絵及び解答欄省略)

#### 参 考 文 献

- 1) Fernand Marty : Language Laboratory Learning, (Audio-Visual Publications, Massachusetts, 1960)
- 2) Edward M. Stack : The Language Laboratory and Modern Language Teaching, (Oxford University Press, New York, 1960)
- 3) Der Große Duden, Bd. 4, Duden Grammatik der deutschen Gegenwartssprache, (Bibliographisches Institut • Mannheim Abt. Dudenverlag, 1959)